

つながりから、新しいつながりへ

記入日：2017年5月26日

ふらのネイチャーゲームの会、ゆうばりネイチャーゲームの会 上ノ澤 千尋

1. はじめに

インストラクターになってから一度入門講座をしたきり、しばらく何もできずにいました。せっかく取った資格を活かしきれていないな、と感じつつも入門講座をするのに何から手をつけてよいのかわからない状況でした。

そんな時、知り合いにネイチャーゲームリーダーに興味がありそうな方がいたのをきっかけに、次から次へとつながりができ、入門講座にいたった経験があります。

今回は、資格をとったけれど……という同じような境遇の方に、わたしの体験した出来事を知っていただき、何らかのお役に立てればと考えました。インストラクターとしての未熟ぶりが恥かしながら、報告いたします。

2. 入門講座に至るまでの経緯

ご近所のAさんと世間話をしていたときのことで、これから、とある森の自然を市内の子どもにも紹介する森林学習スタッフをするというのです。今は研修中で、その森自体のことや動植物について毎回違うテーマで学んでいると聞きました。ネイチャーゲームも知ってもらえたら仲間が増えてうれしいなと思い、ネイチャーゲームリーダー養成講座を紹介しました。

早速リーダーとなったAさんから、一緒に学んでいる仲間にも、ぜひネイチャーゲームを体験してもらいという話をいただきました。ネイチャーゲームを体験することだけでも可能、解説を含めた入門講座もできることを伝えました。すると、主体団体に話をしていただき、入門講座の依頼をいただくことになりました。

3. 当日の実践内容

「スタッフ同士の交流ははじまったばかり」「自然に関する知識が広い方が多い」(…ねらい①)
「この森にまた会いに来たい、と思ってもらえるような経験をしてもらいたい。けれど、時間があまりない」「森林学習プログラムを行う際に、子どもを対象にしている」「対象の子どもたちとは初めてか、2回目で森の活動・森の解説をする」(…ねらい②)と事前にうかがいました。

↓そのことを受け、

ねらい

- (1) ネイチャーゲームの活動を通して、参加者同士のふれあいの機会も提供する。
- (2) はじめて出会う子どもたちともすぐにできそうな、さまざまな形態でできる活動を意識したプログラム作り。

を考えました。

プログラム

| 時間 | 活動名 | 活動ごとのねらいと内容 | ねらいを達成するための工夫、言葉がけなど |
|-------|---|-------------------|---|
| 7:00 | 活動場所下見 2回目 | | Aさんにも下見を一緒にしてもらい、参加者の方の様子を聞く。 |
| 8:00 | スタッフ当日打合せ 会場準備 下見の続き 集合、開講式 | 主催の方、スタッフ間の打合せ | 主催者側の意向を確認。和やかな雰囲気を作れるように、スタッフ同士・主催者の方々とも打ちとけた雰囲気を作れるように努める。 |
| 9:00 | 「はじめまして」 | アイスブレイク | ねらい①に向けて ・じっくり相手の話が聞ける時間をもつ。 成果 ・たくさんの体験や知識を持つ方が多く、話が途切れることがなかった。 ・相手のことをたくさん知る機会ができて良かった、と感想をいただいた。 |
| | 「フィールドビンゴ」 「音いくつ」 「カモフラージュ」 「森の美術館」 危険予知トレーニング ネイチャーゲームの概要説明 小学生に指導するにあたっての注意事項 質疑応答 解散 | さまざまな五感を使って自然を楽しむ | 「今回は小学生になったつもりで体験してみてください」と声かけをした。 成果 ・児童の立場で活動することで、森林学習プログラムでの指導者としての意識から、自然を楽しむという意識へ変わった。 ・五感を使うことで、解説よりも記憶に残る、という感想をいただいた。 |
| 12:00 | 昼食・交流 | 地域でのつながり | 入門講座後に行われた昼食での会話により、また 新しいつながり ができた。 |

ねらい②に向けて

- ・フィールドビンゴ：グループで。
- ・音いくつ：一人で。
- ・カモフラージュ：並んで、ルートを決めて。
- ・森の美術館：一人で～グループや全体で、範囲を決めてさまざまな場所で。

いろいろな状況を味わうプログラムを考えてみました。

成果

・これなら一人でも歩きながら出来そう、グループで歩きながらフィールドビンゴもいいね！など、参加者の方同士でこれから実践するプログラム作りについて活発に意見交流が行われていました。

4. 成果と課題

今年度から、参加されたみなさんが行う森林プログラムが実施された。活動の導入では「音いくつ」をしながら森の中へ入っていくそう。子どもたちが森へ行って耳を傾けると「なんの音だろう。」「奥へ行くとどんな音が聞こえるかな。」「どんな生き物がいるのだろう。」と想像をかき立て、忘れられない思い出のきっかけ作りになるのでは、と考えられたそう。入門講座後もAさんから相談を受け、フローレーニングの考え方に沿ったプログラムの在り方や自然に対する考え方等、一緒に勉強させていただいている。今後もつながりを大切に活動していきたい。

5. 本報告を参考にされる方へ

きっかけは、立ち話からはじまった入門講座。どうやって入門講座をはじめたらよいのかな？ともし迷っている方がいれば、身近な方をお誘いしてみる方法も良いかもしれません。ネイチャーゲームの体験や入門講座の話をしてしまうと、意外に興味あったの！？ということが、この体験後も何度かありました。

今回は入門講座解散後に声をかけていただき、参加者の皆さまと食事をさせていただきました。その中で、新たなつながりができたことが、さらにうれしい出来事となりました。お試しにいかがでしょうか。

6. 活動写真



活動の様子
※「はじめまして」



活動の様子
※「フィールドビンゴ」